

平成29年10月20日

イカナゴ類夏眠場調査の結果について

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

イカナゴ類の夏眠場と想定される下図4海域について、空釣り及びビームトロールで分布状況を調査しましたので、その結果をお知らせします。

佐井村沖2地点における採捕は皆無で、平成27年以降は1個体も採捕されておらず、平成8年に行った空釣り調査で300個体採捕されていたことから、資源動向は深刻な状態が続いていると考えられます。むつ市大畑町沖では54個体と、まとまった採捕が認められました。平均全長は、1歳魚が182 mm (S.D. ± 10 mm)、2歳魚が202 mm (S.D. ± 7 mm) で、水深差はありませんでした（一元配置の分散分析、 $p=0.264$ ）。年齢組成は1歳魚が79.6%、2歳魚が20.4%で、水深差はありませんでした（順序を考慮した比率のKruskal-Wallis検定： $KW=0.128$, $p=0.938$ ）。平成26年の3個体、平成27年の5個体と比べると急激に増加しましたが、340個体が採捕された平成13年から比べると遥かに少なく、分布は極めて少ない状況が続いていると考えられました。東通村尻労沖では、昨年は水深45–50 m を中心に59個体の当歳魚がまとまって採捕されましたが、今年は当歳魚3個体しか採捕されませんでした。

近年の本調査におけるまとまった採捕は、平成28年に東通村尻労沖で当歳魚59個体、平成29年にむつ市大畑町沖で54個体であることから、両海域のイカナゴ類資源は同一であって成長に伴い回遊している可能性もあります。当所では今後も資源動向のモニタリングを継続していく予定です。漁業関係団体の皆様に於かれましては引き続き本種資源を適切に管理いただきますようよろしくお願いいたします。（担当：資源管理部）

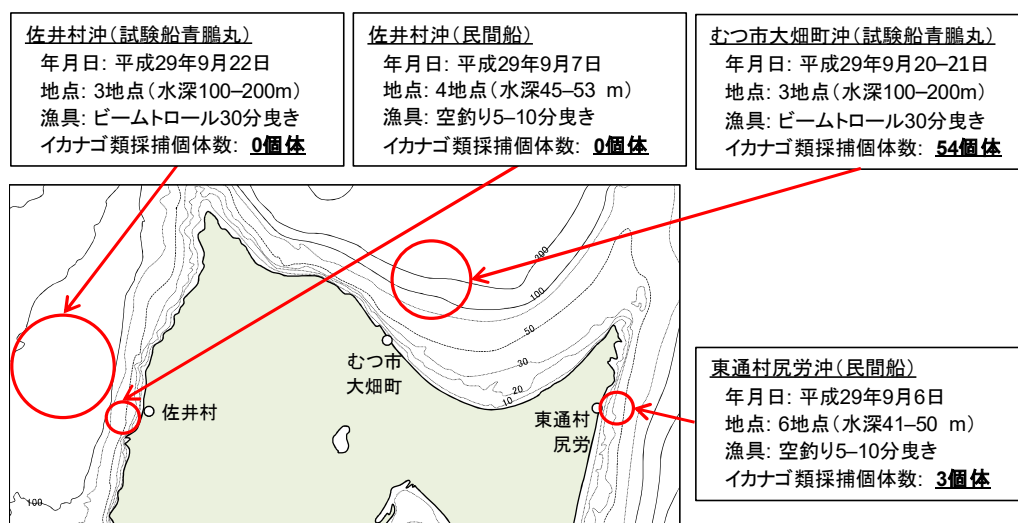


図. イカナゴ類夏眠場調査の結果